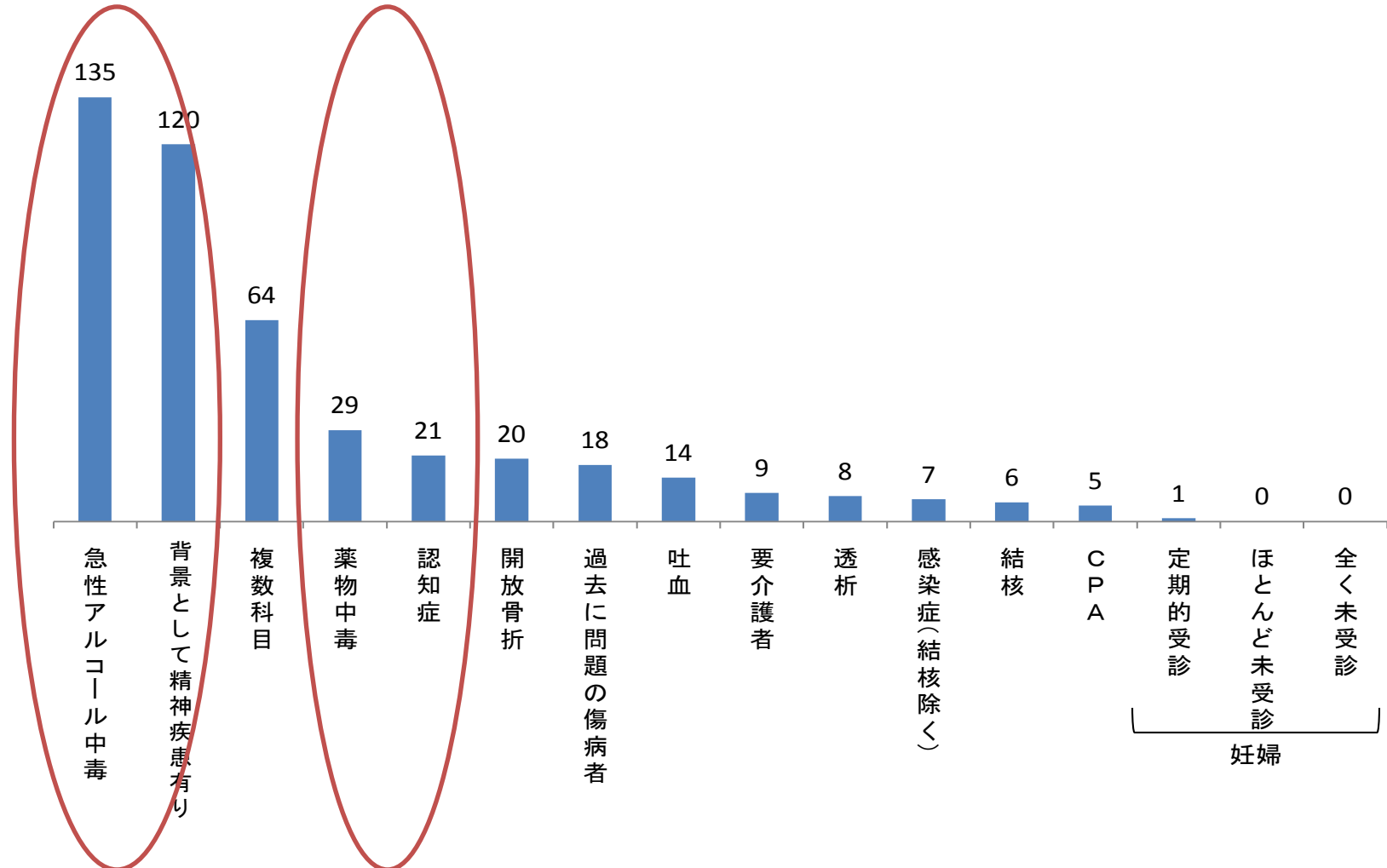


4 精神科医療について

救急隊からの情報に対して医療機関から 受入困難理由として明確な回答があった内容



※ 救急隊が伝達した傷病者背景に対し、医療機関が受入困難理由として明確に回答した件数を計上(457件)しており、1事案において複数の医療機関が傷病者背景を受入困難理由として明確に回答した場合は、延べ数として集計している。

救急搬送における医療機関の受入状況等詳細調査結果

○調査対象:

平成20年12月16日(火) 8:30~22日(月)8:29 に東京消防庁管内で救急搬送した全事案(転院搬送除く)
計9,414件

図1. 医療機関に受入の照会を行った回数:

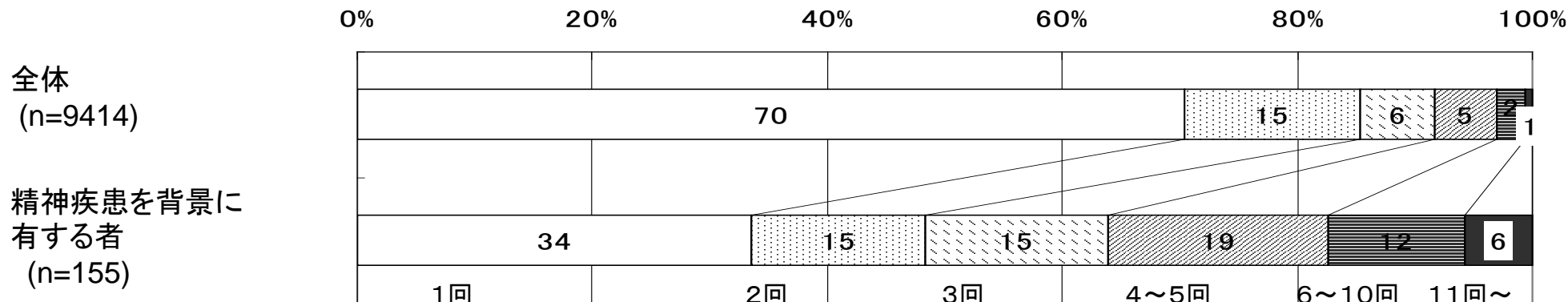
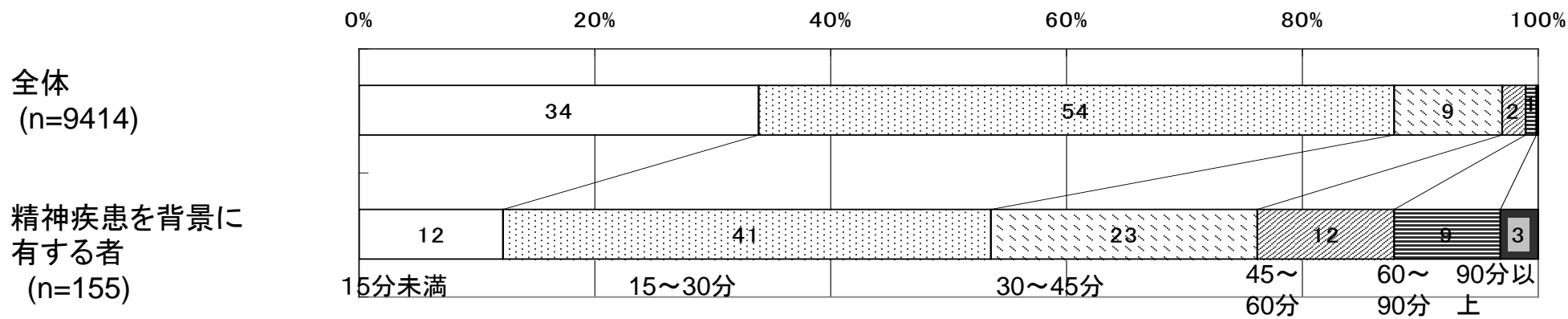


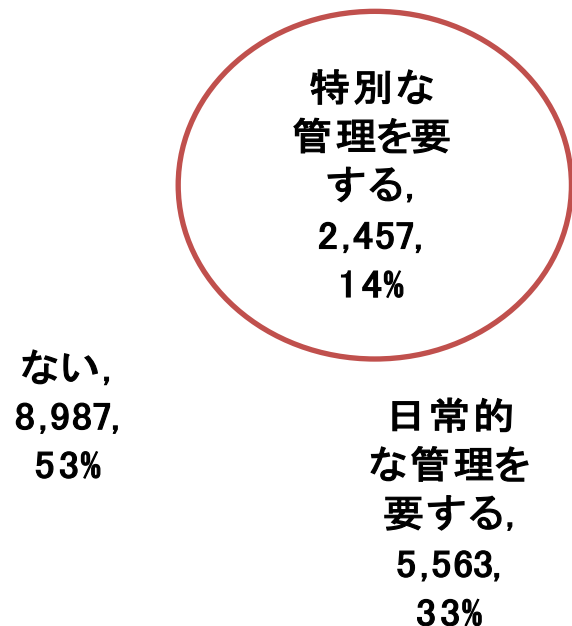
図2. 現場滞在時間



精神科医療における身体合併症について

① 精神病床に入院中の患者における
身体合併症の有無の割合

全体



特別な管理：入院治療が適当な程度
日常的な管理：外来通院が適当な程度

(有効回答数 17,007)

② 救命救急センター入院患者における精神疾患患者及び
身体・精神共に入院治療が必要な者の割合

救命救急センター入院患者の12.3%に精神医療の必要性があり、そのうち18.5%(全体の2.2%)が身体・精神共に入院治療が必要

※ H18.11.1-H19.1.31における調査、東京都内及び近郊の救命救急センター8箇所で実施、全入院件数3,089件

③ 有床精神科総合病院における身体・精神共に入院治療が必要な者の割合

身体疾患、精神疾患共に入院水準の患者の発生(年間): 人口10万対25

※東京都の有床精神科総合病院における2ヶ月の調査より推定

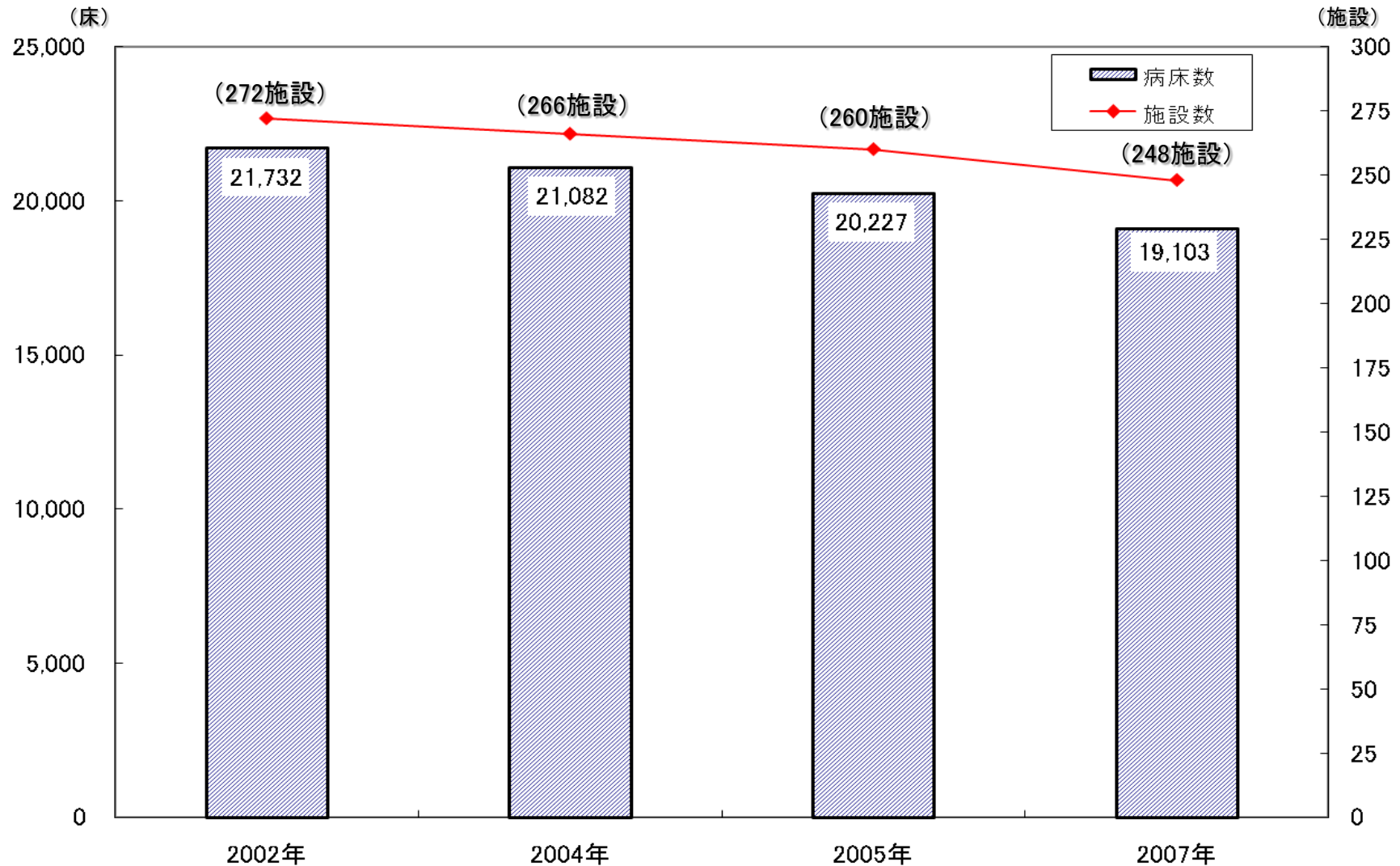
【出典】

①「精神病床の利用状況に関する調査」より平成19年度厚生労働研「精神医療の質的実態把握と最適化に関する総合研究」分担研究

②平成18年度厚生労働科学研究「精神科病棟における患者像と医療内容に関する研究」主任研究者:保坂隆 分担研究者:本間正人

③平成19年度厚生労働科学研究「精神科救急医療、特に身体疾患や認知症疾患合併症例の対応に関する研究」主任研究者:黒澤尚 分担研究者:八田耕太郎

総合病院精神科病床の減少



2007年の病床数は2002年の92.1%に減少
2007年の施設数は2002年の91.2%に減少

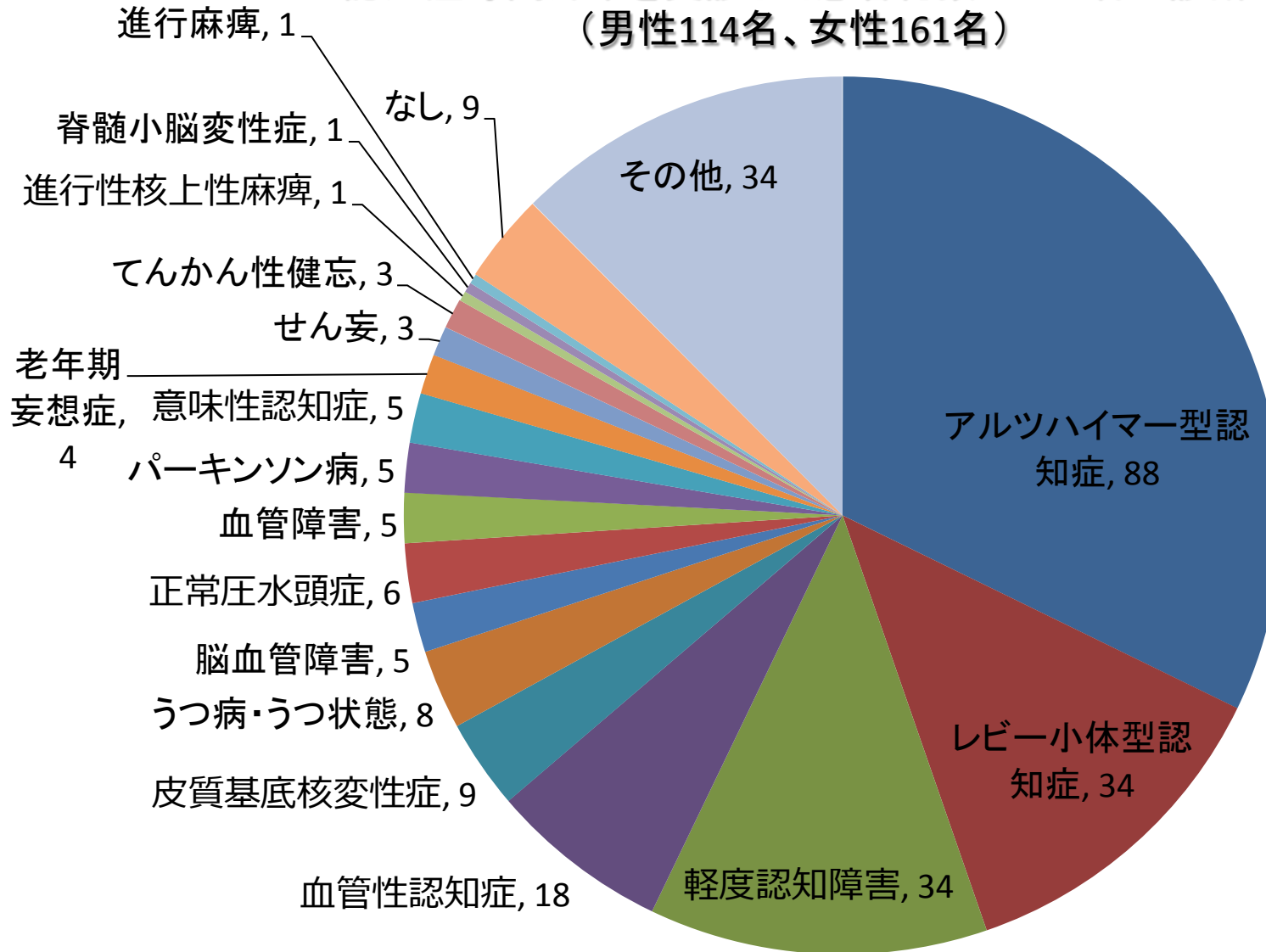
(総合病院基礎調査などから算出)

認知症の経過と医療の必要性



認知症の早期鑑別の重要性について

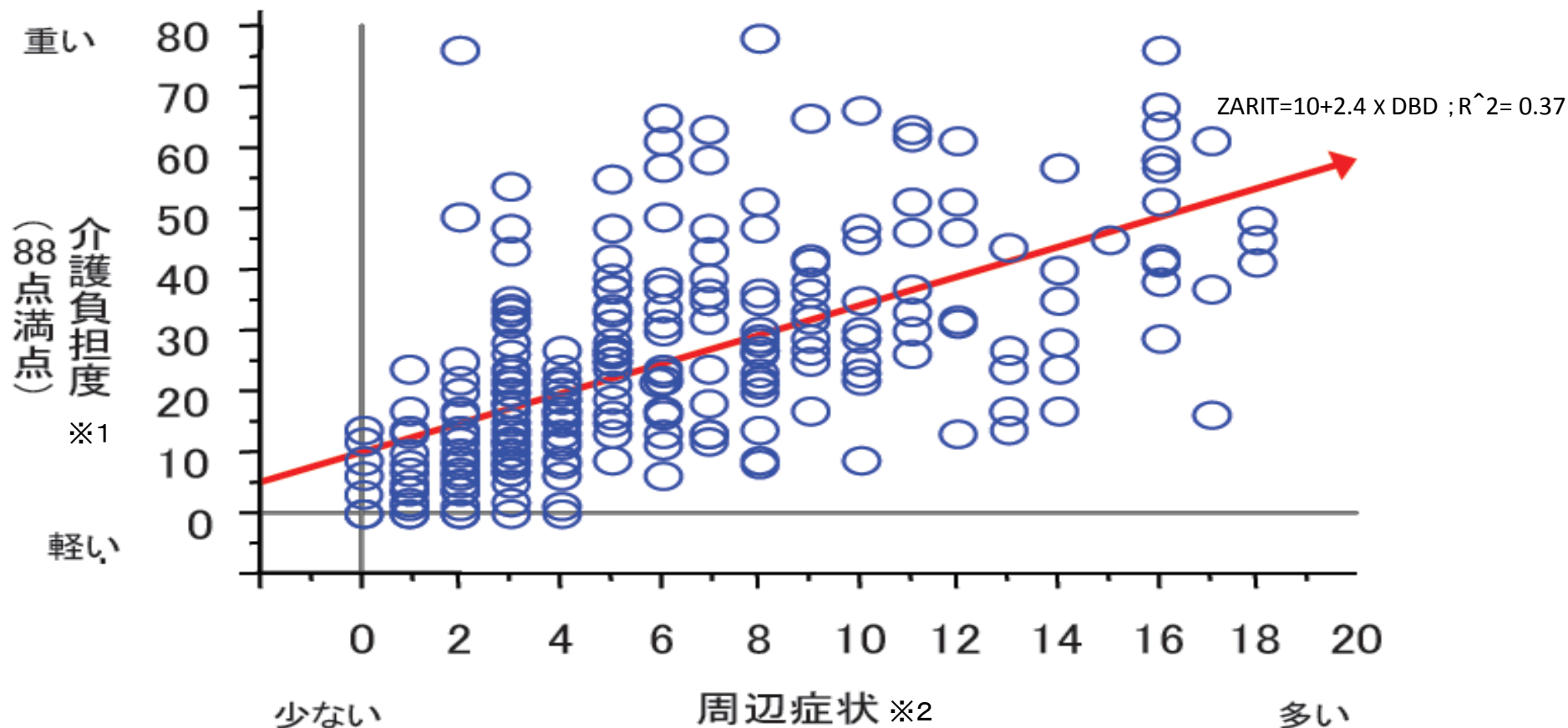
認知症専門外来を受診した患者総数 275名の診断
(男性114名、女性161名)



認知症のBPSD(行動・心理症状)と介護負担度について

介護負担度と周辺症状

N=476



※1 ZARIT介護負担尺度(ZBI): 親族を介護した結果、介護者が情緒的、身体的健康、社会生活および経済状態に関して被った被害の程度を測定できる尺度。22項目について0(全く負担ではない)から4(非常に大きな負担)で評価。(最小0点、最大88点)

※2 DBD(痴呆行動傷害尺度): 周辺症状28項目について0(全くない)から4(常にある)で評価。(最小0点、最大112)

認知症患者の入院状況

総合病院型認知症疾患センター(大学病院除く)8施設を対象に、平成19年11月1ヶ月に新規入院した65歳以上の認知症高齢者21人についてのアンケート調査。

○入院理由

95%がBPSD対応困難が理由で、14%が身体症状悪化である。

※43%は即日入院が求められ、そのうち89%が即日入院。

※中等症以上の認知症が80%以上を占める。

注1

○入院経路

57%が自宅から入院し、28%が医療機関、14%が施設から入院している。

注1 臨床的認知症尺度(CDR: Clinical Dementia Rating Scale)で認知症の重症度を評価。

6項目(記憶、見当識、判断力、問題解決、社会適応、家庭状況及び趣味、介護状況)について総合的に評価し、健康(CDR0)、認知症疑い(CDR0.5)、軽度認知症(CDR1)、中等度認知症(CDR2)、高度認知症(CDR3)のいずれかに評価。

5 がん対策について

がん対策推進基本計画の見直しについて

- がん対策基本法に基づき策定される「がん対策推進基本計画」(平成19年6月閣議決定)については、少なくとも5年ごとに、検討を加え、必要があると認めるときは変更しなければならないとされていることから、現在、がん対策推進協議会においてがん対策推進基本計画の見直しについて議論を進めているところ。
- 平成22年12月、基本計画の見直しを検討する上で、俯瞰的かつ戦略的な検討が必要で、極めて専門的な知見を要する分野については、がん対策推進協議会のもとに専門委員会を設置することとなり、「小児がん」、「緩和ケア」、「がん研究」の3分野について専門委員会が設置された。
- 小児がん・緩和ケアについては、8月26日のがん対策推進協議会にて、専門委員会報告書が提出されたところである。
- その他、協議会において、「がん診療連携拠点病院」、「支援・情報提供」についての議論が終了し、今後、「がん医療(手術・放射線・化学療法)」、「在宅医療・チーム医療」、「がん予防・検診」、「がん登録」、「就労経済負担」、「サバイバーシップ」等について議論される予定であり、12月に基本計画見直し案をまとめる予定としている。

小児がんにおける現状と課題

- 小児においてがんは病死原因の第1位であるにもかかわらず、がん対策基本計画に小児がん対策はほとんど盛り込まれておらず小児がん対策が遅れている。
- 小児がんは発生頻度が低く、さまざまな部位から発生するうえ、小児から思春期、若年成人にまで発症するため多種多様ながん種と幅広い年齢層を念頭に置いた対策が必要。また、治療による合併症に加え、成長発達期の治療による合併症（発育・発達障害、内分泌障害、臓器障害等）への対応が必要であり、成人がんとは異なる取り組みが必要。
- 現状、2000～2500人の患者が約200の施設で治療されているが、必ずしも適切な治療がなされていない。
- その他、治療に関する正確な情報提供・相談支援体制の整備、療養環境や教育体制の整備、治療後長期にわたり支援する診療・相談体制の確立、緩和ケア等が課題としてあげられる。
（「小児がん専門委員会報告書」より）

（参考）＜子どもの年齢階級別死因順位（死亡率（人口10万対））（平成22年）＞

	1－4歳	5－9歳	10－14歳
1位	先天奇形、変形及び染色体異常(3. 8)	不慮の事故(2. 4)	悪性新生物(1. 6)
2位	不慮の事故(3. 5)	悪性新生物(2)	不慮の事故(1. 6)
3位	悪性新生物(2)	心疾患(0. 7)	自殺(0. 9)

緩和ケアにおける現状と課題

緩和ケアについてはこれまで医師に対する基本的な緩和ケアの研修の実施やがん診療連携拠点病院における緩和ケアチームの設置等の取り組みが推進されてきたが(注1)、以下のような課題がある。

- ・疼痛をはじめとする症状に早期から対応するため、がんと診断された時から緩和ケアを実施することが必要(注2)。
- ・地域における緩和ケアの提供体制の確立
- ・緩和ケアチームの質の向上、緩和ケアに携わる医師の育成、在宅緩和ケアの充実

(「緩和ケア専門委員会報告書」より)

(注1)緩和ケアの研修に関しては平成23年3月現在約1万3千人が受講している。

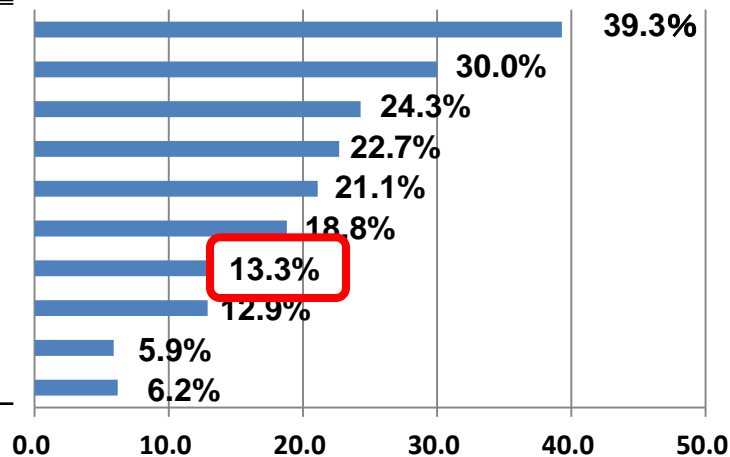
(注2)基本計画においては「治療の初期段階からの緩和ケアの実施」とされているが、緩和ケアの開始時期については、診断時から実施する必要があると緩和ケア専門委員会において結論づけられている。

平成22年がん対策評価・分析事業報告

－ 分野2 緩和ケアより 抜粋－

質問:「緩和ケア」についてあてはまるものを選んで下さい (n=2273)

- ・終末期の患者だけを対象とと思っていた
- ・病院、緩和ケア病棟などの限られた場所でしか行われなかった
- ・よく知らないが、聞いた事はある
- ・「緩和ケア」の意味を十分知っていた
- ・治療と並行でなく、単独で行われるものと思っていた
- ・痛みなどの身体症状のみを対象とと思っていた
- ・自分の受けている「緩和ケア」に満足している
- ・医師と「緩和ケア」について話し合った
- ・知らなかった
- ・回答なし



出典: 厚生労働省委託事業平成22年度がん対策評価・分析事業
がん対策に関するアンケート調査結果報告書より

がん対策評価・分析事業報告における総合考察(抜粋)

- ・医療用麻薬を適正に使用することで十分な疼痛コントロールを得ることの重要性といった、身体面の緩和ケアについての更なる充実はもちろんのこと、家族を含めた精神的なケアの充実も求められている。**緩和ケアの内容について、その質をより高めるための策が必要である。**

主要各国の医療用麻薬使用量

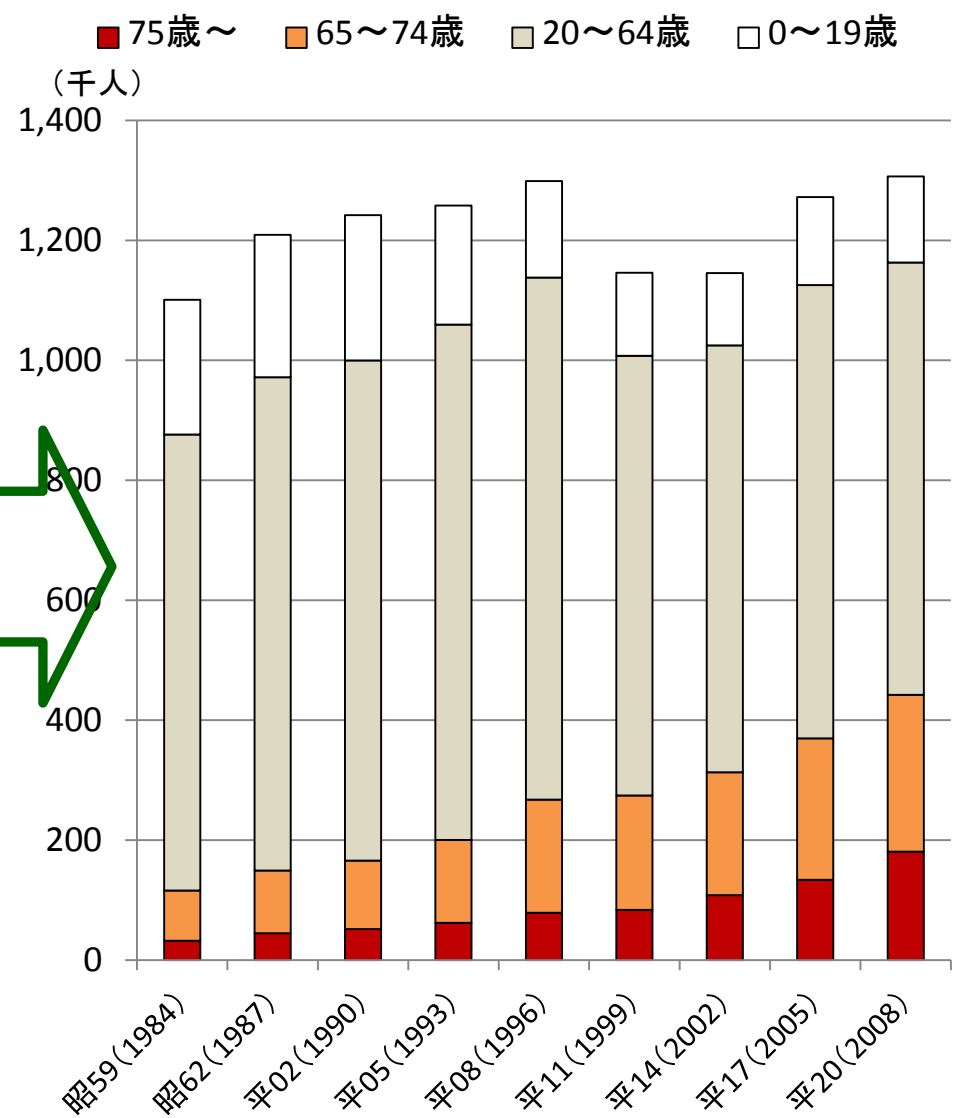
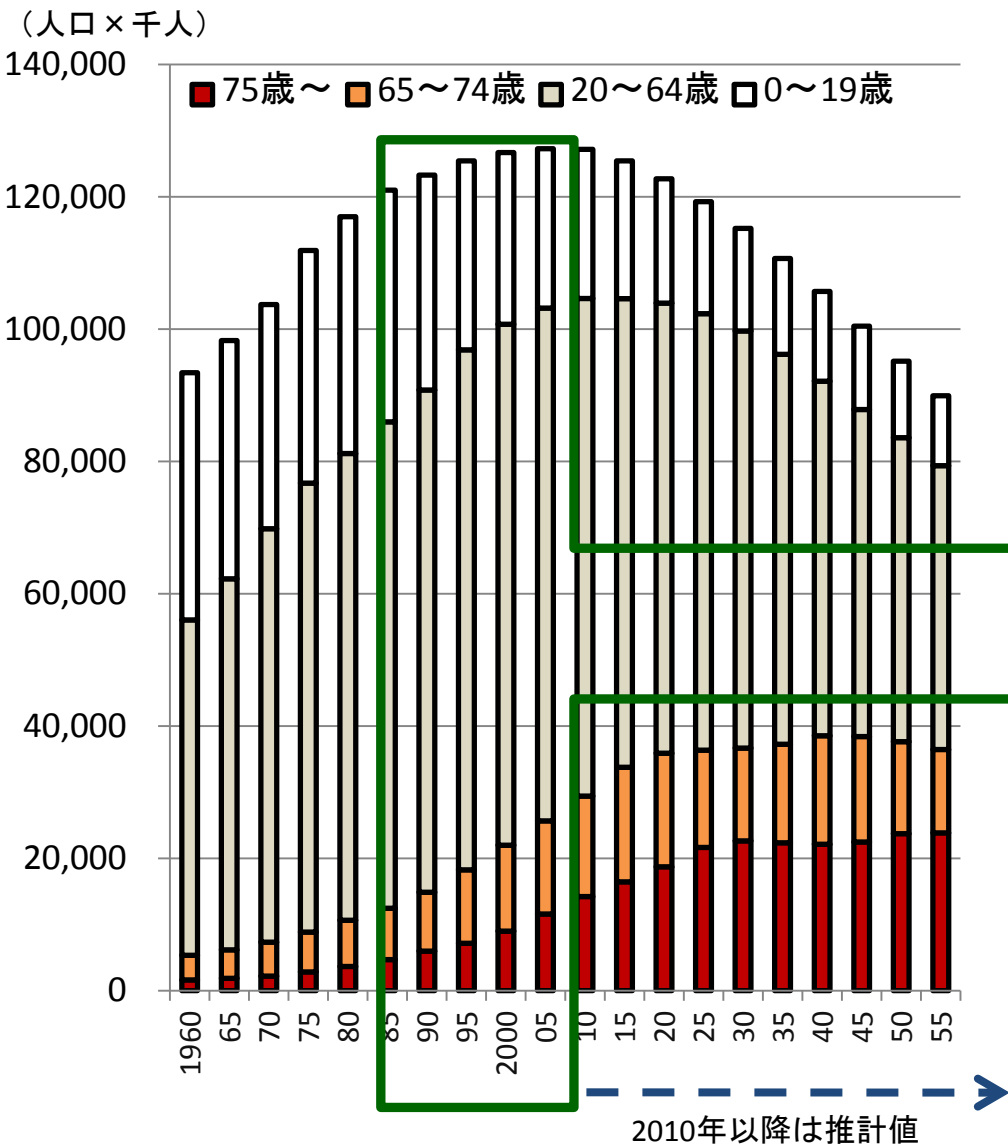
モルヒネ、フェンタニル、オキシコドンの合計
(100万人1日あたりモルヒネ消費量換算 (g))

	2000-2002	2001-2003	2002-2004	2003-2005	2004-2006	2005-2007	2006-2008
オーストリア Austria	469	543	624	736	882	1,103	1,315
アメリカ USA	458	574	701	1,250	1,403	1,567	1,694
カナダ Canada	371	462	581	917	1,090	1,273	1,388
ドイツ Germany	339	406	551	732	1,089	1,344	1,531
フランス France	272	302	326	379	460	558	604
オーストラリア Australia	220	236	251	376	427	516	640
イギリス UK	148	143	171	255	299	273	291
イタリア Italy	46	72	95	123	140	158	193
日本 Japan	26	39	49	61	69	78	84
韓国 Korea	19	19	17	23	37	57	85

6 歯科医療について

年齢(4区分)別の人口の推移・将来推計

年齢(4区分)別の歯科診療所の患者数の推移

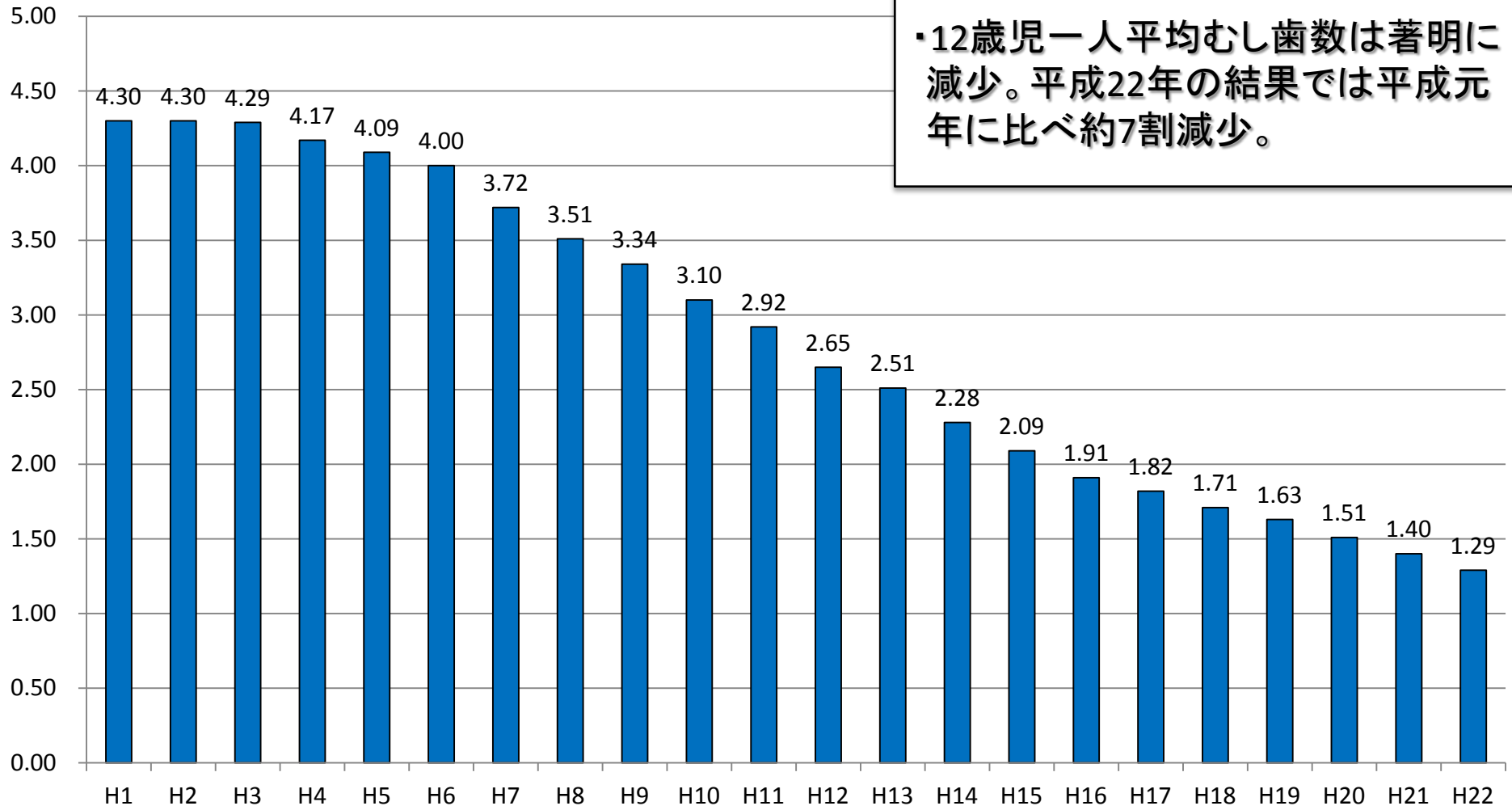


(基礎資料: 国立社会保障・人口問題研究所; 年齢(4区分)人口の推移と将来推計)

注) 全国の歯科診療所を受診する1日当たりの推計患者数 (患者調査)

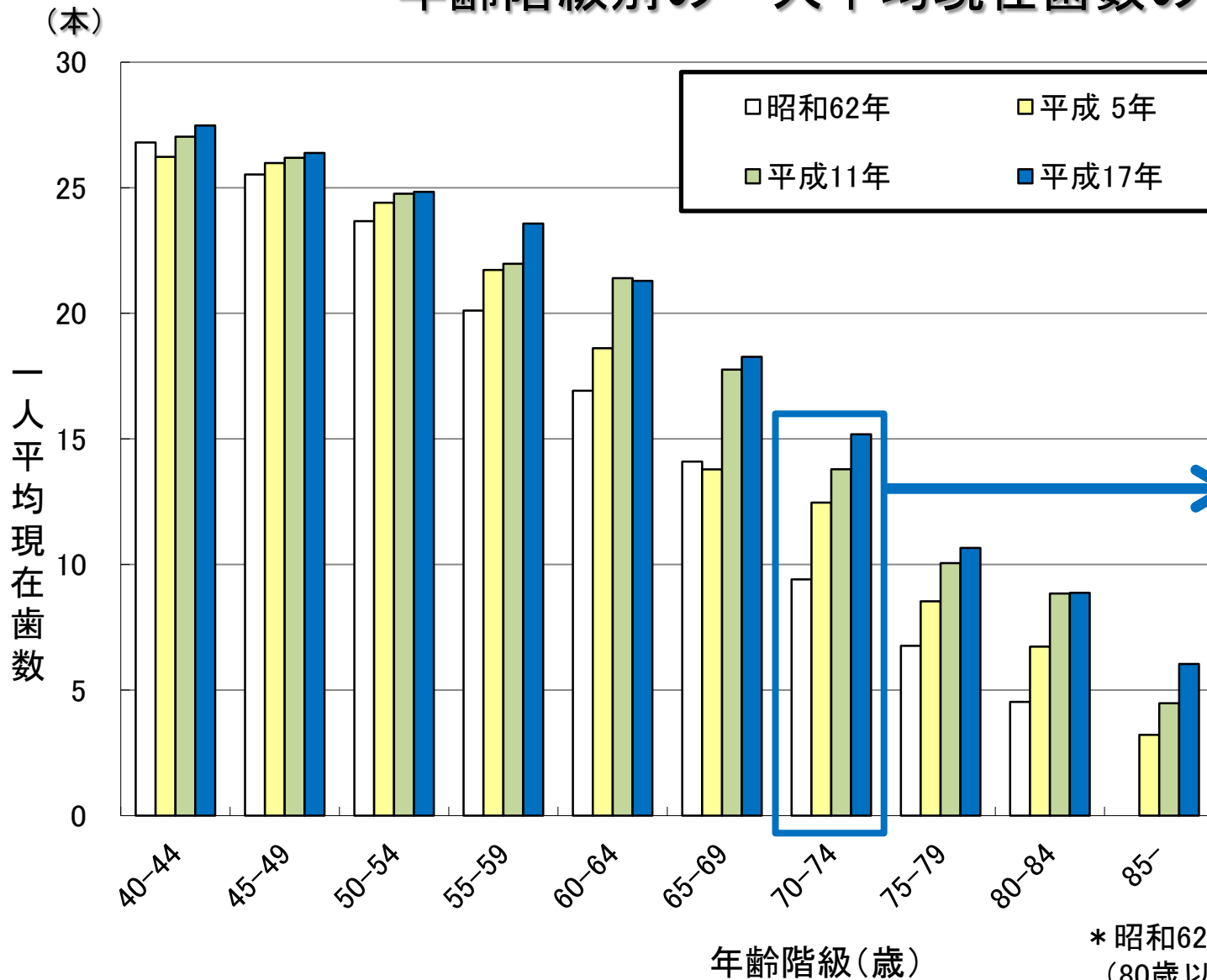
12歳児 一人平均むし歯数等の年次推移

むし歯数は、「未処置のむし歯」、「治療済みのむし歯」、「むし歯が原因で喪失した歯」の合計。



・12歳児一人平均むし歯数は著明に減少。平成22年の結果では平成元年に比べ約7割減少。

年齢階級別の一人平均現在歯数の推移



・各調査年を比較すると、年齢階級別の一人平均現在歯数は、40歳～54歳までの年齢階級では、大きな差は見られないが、50～54歳の年齢階級から差がみられるようになった。

・70～74歳の年齢階級では、平成17年と昭和62年を比較して、一人平均現在歯数は、6本程度増加している。

* 昭和62年の80-84の年齢階級は参考値
(80歳以上で一つの年齢階級としているため)

出典：歯科疾患実態調査

(昭和32年より6年ごとに実施されている調査。直近は平成17年に実施され、今年度実施予定。)

入院患者に対する歯科的管理の実施状況

歯科を標榜していない病院の約3割は、歯科的管理を実施していない状況となっている。

※ 歯科を標榜していない病院に入院する通院困難な患者に対する口腔管理は、診療報酬において評価（歯科疾患在宅療養歯科疾患管理料及び口腔機能管理加算）

チーム医療推進方策検討ワーキンググループ（平成23年1月28日）
における向井委員提出資料（一部改編）
（病院でのチーム医療における歯科の係わりに関する調査
－日本歯科総合研究機構）

歯科標榜のない病院における口腔ケアを含めた
歯科的管理の実施状況（N-1,969）



（参考）周術期の口腔ケア

- 最近、高齢者等の全身疾患等を有する患者に対する口腔ケアのみならず、周術期の患者に対する口腔ケアの重要性も指摘されているところであり、様々な取組がみられる（例：昭和大学病院の取組、国立がん研究センターと日本歯科医師会によるがん患者歯科医療連携事業等）。
- 平成22年度歯科診療報酬改定において、別に厚生労働大臣が定める特定の手術を行った

入院患者に対し、術後感染症及び術後肺炎等の発現のおそれがある場合であって、当該患者が入院している病院の歯科衛生士が術後口腔清掃を行った場合を評価。

障害者の歯科医療

障害者への歯科治療の特徴など

○ 歯科治療の困難性

- ・患者が治療の必要性を理解できない場合、治療に必要な協力が得られない
- ・四肢や口腔の緊張や不随意運動のため姿勢の維持、開口の動作が出来ない
- ・言語によるコミュニケーションが確立しにくい

○ 特異的な歯科症状

- ・口腔の奇形・先天性の欠損、歯列、咬合などの形態学上の異常があり、それに対する対応として専門的知識や診断が必要
- ・口腔の機能的異常が、摂食・嚥下、味覚、構音、表情といった機能の不全、障害が診られ、その診断、対応に専門的知識と経験が必要
- ・う蝕、歯周病、欠損という歯科疾患の症状に特異的なことがある

平成22年度社会保険指導者研修会講演資料「地域で診る障害者歯科」(緒方克也氏)より一部改変

○ 歯科診療報酬の初・再診料に対する障害者歯科加算の対象となる場合の例

脳性麻痺等で身体の不随運動や緊張が強く体幹の安定が得られない状態、知的発達障害により開口保持が出来ない状態や治療の目的が理解できず治療に協力が得られない状態である者。

○ 処置等の特掲診療料の著しく歯科診療が困難な障害者に対する100分の50加算の対象となる場合の例

歯科治療を直接行う歯科医師に加え、患者の障害に起因した行動障害に対し開口の保持又は体位、姿勢の保持を行うことを目的として、当該治療に歯科医師、歯科衛生士等が参画した場合。